

能

見太郎さんは、京都府長岡京市で木の魅力を活かした伝統的な家造りを得意とする能見工務店の代表です。早速、能見さんに大工の修業時代の思い出を振り返ってもらいました。

「午前十時と午後三時は職人の世界では『一服』と呼び、三十分ほどみんなが輪になってお茶を囲み、たわいもない話をするのが習わしです。一軒の家を建てるのに三十五業種も関わるため、現場では日替わりでいろいろな人と一服するのが楽しみでした」

十年間の修業を通じて、日本の伝統的な木造家屋に魅了された能見さんは二〇〇八年に独立。営業や経理など慣れない業務も一手にこなす多忙を極めた頃、母の影響で始めた茶道が自身の助けになったと教えてくれました。



能見さんが愛用するお茶セット。木のコースターと合うシンプルなダブルウォールグラスがお気に入り。



PROFILE

1977年、兵庫県朝来市生まれ、京都府長岡京市育ち。10年間の大工修業を経て2008年に独立。能見工務店の代表取締役を務める。日本の伝統技法を用いた木の注文住宅とリフォームを得意とする。

能見工務店

【住所】 京都府長岡京市井ノ内頭本 15-8
 【電話】 075-963-6208
 【営業時間】 9:00 ~ 19:00
 【定休日】 日曜・祝日
 【HP】 <https://www.noumi-k.com>
 【YouTube】 @noumi-k

長岡京市の営業所は、随所に能見さんのこだわりが詰まった空間。ほのかな木の香りや、無垢材のフローリングや棚の美しい木目を眺めていると心身がリラックスする。

「祇園祭と仕事の両立で忙しい季節も、熱い緑茶でリセットしています」

能見工務店 能見 太郎さん

「まるで時間が止まったような空間でお茶をいただく、自然と仕事を忘れ安らいでいることに気づきました」

それ以来、「仕事で張り詰めた気持ちをリセットできるもの」と意識してお茶時間を過ごすようになりました。

飽くなき探求心で突き進む能見さん。二〇一六年から祇園祭山鉾のひとつである鶏鉾の鉾建て（山鉾を組み立てること）などを執り行なう裏方として、祭りを支えています。

「鉾の骨組みに使う木材は江戸時代から続くものもあります。それらに触ると歴史の重みを感じますね。伝統を受け継ぐ大きな責任を感じますが、同時に誇らしい。こういうやり甲斐も含

めて未来に継承したいです」

現在は四名の従業員のほか、弟子二名を抱える能見さん。現場にはそれぞれの湯呑が置かれており、一緒に一服するのが習慣です。

「四十歳を過ぎたあたりから夏でも熱い緑茶を好んで飲むようになりました。仕事終わりに弟子たちから相談を

受けたときも『お茶でも飲みながら話そうか』と提案します」

後進育成に力を注ぎ、伝統工法の担い手を増やすための動画配信やカフェ開業など積極的に活動中です。

「一人でも多くの人に木造家屋の素晴らしさを知ってもらえるきっかけになればうれしいです」

「家を建てる際に出てしまう端材を活用したい」という思いで誕生したまな板とコースターを販売中。ヒノキのまな板は、定期的に鉋（かんな）がけのメンテナンスが受けられるサービス付。



能見さんが参加する鶏鉾での「鉾建て」の様子。縄だけを使った「縄がらみ」という伝統的技法で10トン近くある鉾を組み立て、二十数名の職人たちが3日間かけて完成させる。

